

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26年 2月 10日			
所属学部・研究科	文学研究科 1年次 (留学開始時点)			
留学先大学	グラーツ大学 (国名: オーストリア)			
所属学部・学科等名	Germanistik (ドイツ学)			
在籍身分	Master			
留学期間	平成 25年 9月 5日 ~ 平成 26年 1月 25日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: なし			
	ビザ申請先:			
	取得方法, 提出書類:			
	手続きに要した日数:			
その他必要な事前手続き	入寮手続き・デポジットの支払い/語学コースの登録・支払い			
出国年月日	平成 25年 9月 2日			
経路	広島—成田—ミュンヘン—グラーツ			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	9月5日~17日にかけて、大学の学生登録・設備等の案内・授業登録の案内・ビザと現地保険の取得方法などについて、英語またはドイツ語 (個人で選択できる) によるオリエンテーションが行われた。			
帰国年月日	平成 26年 2月 3日			
経路	グラーツ—ミュンヘン—成田—広島			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	746,580	円	
	内訳	渡航費	235,000	円
		保険料	79,580	円
		教科書代(学費)	50,000	円
		宿舍費	198,000	円
		食費	100,000	円
		その他 (通学費)	14,000	円
(雑費)	70,000	円		
(費)		円		
3. 授業について				
25年 冬学期	10月 1日 ~	1月 25日		

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	Master 所属であったが、学部生の講義にも参加可能。また、留学前にあらかじめ現地大学での専攻分野を登録する必要があるが、授業担当教員との相談次第で、専攻外の講義やゼミにも出席することができる。
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	研究目的ではなく、標準ドイツ語を身につけることが目的で留学を希望する場合は、オーストリアの方言はきつく、授業も方言で行われることが多いので、あまりおススメは出来ない。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 7 m ² 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり 300€ (現地通貨) 約 42,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	寮は留学先の大学が仲介してくれるが、契約期間はテスト期間を含んでおらず短いため注意が必要。また、布団・枕もないので、現地到着時間にも注意が必要。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 79580 円 補償額 死亡 一千万円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	病院にかかっていないため分からない。

留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	カロリーの高い食事と硬水で胃腸を悪くする留学生は多いようだった。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
基本的には治安は良いが、深夜の独り歩きは避けた方が良い。(平日は深夜バスの運行なし)		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
グラーツにあるアジアショップでは日本食はほとんど手に入らないため、現地の食事が口に合わない場合は日本から食料を送ってもらったり、ウィーンで日本製品を取り扱っている店まででかけたりと、工夫が必要かもしれない。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 27年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	帰国後就職活動を始め、同時に修士論文の執筆にとりかかっている。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	修士を2年で卒業するのであれば、留学前(1年前期)に取得可能な単にはほぼ全て取っておいた方が良いと思う。	
6. 留学準備, 留学中に役立つ書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細(出版社, URL等)	コメント
Uni Graz	http://www.uni-graz.at/	大学公式HPで留学生用のページもある。
Uni Graz Online	https://online.uni-graz.at/kfu_online/webnav.ini	グラーツ大学の学生専用ページ
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
<p>グラーツは日本人が非常に少なく、日本語学科もないため、ドイツ語力初歩の状態での留学し、語学力向上を目指す場合は精神的負担が大きいかもしれない。また、現地学生や教授も含め、ほぼ全ての人が強い方言(シュタイアーマルク方言)を話すので、ドイツ語力に不安のある場合はあまりおすすめできない。その他の点では、安全で静かで学習しやすい環境であり、中級以上のドイツ語力があれば、よりその力を伸ばすことができると思う。</p>		

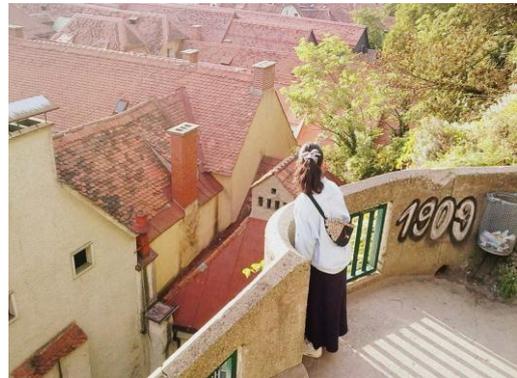


学習の概要に関するレポート

まず大学の冬学期が始まるまでの1か月間は、大学付属の語学コース（別途受講料が必要）において留学生向けのドイツ語集中コースを受講した。月曜日から金曜日までの9:00~12:15、集中的にドイツ語を勉強することになるので、大学の授業が始まる前の良いウォーミングアップとなった。開講期は、引き続き語学コースの授業を2つ受講していたが、こちらも受講料と書籍代が必要ではあるが、コースや担当教員によっては非常に充実した授業で、語学力の向上に役立つものだったと思う。特に、私はオーストリア文学を専攻しており、オーストリア方言のドイツ語の習得が留学の目標のひとつであったが、標準ドイツ語にはないオーストリアでのみ使用されている単語や言い回し、文法事項などを扱う授業もあり、大変参考になった。

現地では、広島大学での専攻と同じく **Germanistik**（ドイツ文学語学）専攻の **Master** に所属していた。専攻ごとに留学生の履修のアドバイスを担当されている教員が配置されており、各専攻のオリエンテーションが個別に行われ、履修については問題なく進んだ。また、留学生は事前に登録した専攻以外の講義やゼミであっても、担当教員との相談次第で受講可能であったため、私は興味があった学部対象の講義を受講することができた。受講者が数百人いるような大規模な講義でも、教授によってはオーストリア方言を使用する場合もあるので、授業内容と共に、方言の聞き取りの練習にもなり個人的には満足だった。ただし、授業中に飛び交う学生たちの発言については、訛りの強いことが多く、議論についていくのは非常に難しく感じた。

HUSA プログラムについては、サポート体制も留学準備から現地での生活まで万全で、安心して自分の勉強に集中することが出来た。**HUSA** の **HP** には4つのメリットが挙げられているが、まず「留学先大学の授業料不徴収」については、確かに授業料は必要ないが、留学生向けのドイツ語コースやその他の外国語の授業には別途受講料が必要であり、かつ受講可能人数が非常に少ないため、注意が必要である。また「受入交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流」についても、グラーツ大学は広島大学との交流が非常に少なく、近年は広島大学に留学するオーストリア人学生はほとんどいなかったようであったし、現地での交流に関しても、**HUSA** プログラムではサポートされていないため、自分の力でコミュニティを広げていく必要がある。グラーツ大学に留学している日本人学生は、他大学を合わせても比較的少なく、日本語学科もないため、日々日本語を使う機会はほとんどなく、ドイツ語を用いざるを得ない環境にある。ある程度の基礎力があれば、方言を楽しみながら語学力を向上させる良い環境であると言える。



生活の概要に関するレポート

生活面に関しても、まず一番に問題となりうるのはオーストリア方言（グラーツはシュタイアーマルク方言）だと思う。街中では標準ドイツ語を聞く機会はほとんどないと思ってよい。現地での生活ではじめに必要なのが、住民登録やインターネットの申し込みなどだが、事前に登録すればオーストリア人学生のチューターが手助けしてくれる。ただし、このチューターシステムは日本のようにきちんとしているわけではなく、自分の担当に振り分けられたチューターが、全く何もしてくれなかったり、音信不通になったりするケースもあるので、あまり期待はせず、自分ですべての手続きをするつもりで色々調べていたり、準備をしっておくべきである。私の場合は、担当のチューターが空港のピックアップのみで音信不通になり、寮で知り合った現地学生や道端で出会った人に助けってもらった。9月初めの夜23時頃に寮に到着したのだが、部屋にはマットレス以外何もなくて、夜は既に冷え込んでいたので、布団や枕、防寒具を買うことも考えて現地到着時刻には注意が必要である。

交通に関しては、路面電車とバスが比較的充実しているが、自家用車を使う人も多く渋滞が多い。そのため通学には路面電車などを乗り継ぐ人と同等数、自転車通学の学生が多い。留学生も現地大学の仲介で決まった寮の立地によって、公共交通を使う場合と自転車または徒歩通学に分かれる。公共交通乗り放題チケットは、学生用でも半年間有効なものは15000円程度かかり、自転車も安価なものはないのでチケットと同等の価格であった。基本的に日本と比べても治安の良い町であるように感じたが、オーストリア第二の都市でありながら深夜交通は貧弱で、平日に深夜バスは走っておらず（寮によっては最終のバスが11時頃になる場合もある）、休日も1時間1本程度なので、夜遅くなりそうな時は自分の身を守る手段を考える必要があるだろう。

物価は日本と変わらないが、グラーツのアジアショップ（2店）では日本の食材がほとんど手に入らない。オーストリアの食事は肉・じゃがいも・パンを中心にした脂っこいものが多く、朝・夕は調理しない冷たいままの食事（火腿やチーズとパン、シリアルなど）なので、胃腸を悪くする留学生は多いようだった。どうしても口に合わず、ウィーンまで（電車で2時間半）食材を調達に行く留学生もいた。

下宿先に関しては、私の場合第一希望がかない、一人部屋で台所を5人で共有していたが、フラットメイトは全員オーストリア人だったため、寮でもドイツ語を使う機会が多かったのがよかった。ただし寮によっては留学生ばかりが集まっているところもあり、グラーツ大学にはドイツ語能力を一切問わず英語のみを用いる留学プログラムもあるため、寮では英語しか使えない、という場合もあるようだった。

ビザに関してだが、オーストリアは日本との二か国間協定により、シェンゲン協定の加盟国ではあるが観光ビザのみで半年間在留できる。そのため冬学期のみの滞在であった私はビザの手続きが不要だったが、ビザを取らずに半年滞在する予定であれば、トラブルを防ぐために、他のシェンゲン協定国を経由せず、直接オーストリア国内に着く便を選んだ方がよい。

